

座談会 ②



第2回目の座談会は、市政記者クラブの記者3名と広報委員3名とで開催しました。緊急事態宣言解除後であったため、感染防止対策を講じた上、会議形式で行いました。

日々報道に携わる方々の目には、市議会広報はどのように映っているのか。率直なご意見を伺いました。

市議会だよりを見ると？

—市議会だよりの良い点、悪い点を教えていただけますか？

新山 一言で言うと、見づらい。文字が小さくて量も多いですね。情報を全部詰め込んでいるという印象です。もう少し市民が親しみやすくなるような紙面に改善する必要があるのではないのでしょうか。

長崎 文字が多くて、どこが大事な点なのか、何が決まったのかが分からないですね。

佐々木 レイアウトはカラーで目を引きやすくしているのは良いと思ったのですが、情報が多すぎて、市民からすると見づらい。そもそも誰が誰に向けて発信している紙面かが分からないですね。

市議会の広報番組を見ると？

—30分程度の市議会広報番組をケーブルテレビやYouTubeで放映していますが、それに対するご意見はありますか？

長崎 YouTubeで観ましたが、長いですね。3〜4分ぐらいで区切る方が再生回数が伸びると思います。発言者の顔写真や紹介があるのは良いですが、サッカースタジアムとか、コロナとか、項目別に質問をまとめた方が見やすいですし、関連したイメージ画像を入れるとより理解しやすくなると思います。また、YouTube動画では、タイトルとサムネイルが重要ですし、ハッシュタグもあった方が良いでしょう。

議員の素顔が見えるミニ企画も入れてはどうでしょうか。

佐々木 アクセス件数が増えるような、何かしらのインパクトが必要ですね。フェイスブックで議員の日常を紹介するというのも良いと思います。



広島市議会動画チャンネルの動画一覧

市議会が伝えるべきことは？

—議会のことで一番知りたいことはなんですか？

新山 市民生活に直結するもの。それについて議員がどんな質問をして、市がどう答えたかということですね。

長崎 自分の生活の何が変わるのかが一番気になります。議会はどうしても難しいイメージがあるので、市民にもっと分かりやすく、身近に感じてもらえるような発信をSNSなどでしてもらいたいですね。

佐々木 税金がどう使われているか。今の時期、何が一番の課題で、何にお金が使われているのかが知りたいかなと思います。

定例会開会案内ポスター、その効果は？

—定例会の開会をお知らせするポスターを市内約200カ所に掲示していますが、見たことがありますか？改善点があるとしたらなんですか？

佐々木 以前からポスターは目に留まっていました。LINEで「議会が始まりますよ。」ぐらいを通知したら、若い人たちにも届くと思います。

新山 昨年、学生の方がデザインをしたポスターは結構印象に残っています。ポスターだと貼る箇所が限定されますが、LINEで画像データを発信するというのも有りではないかなと思います。

長崎 私も市役所の中に貼ってあるのを見たと思いますが、他では見たことはありません。SNSで発信する方が、より多くの人が目にするのではないかなと思います。

おわりに

広報委員 伝えたいことと知りたいこととのミスマッチということもあるのだなと感じました。広報委員会としては、本日いただいた意見を踏まえながら、市民を惹きつける市議会広報の実現に向けて、しっかりと議論をしていきたいと思っています。これからも市議会の活動や広報を注視していただくようお願いします。

市議会広報とは？

◆このたび、ひろしま市議会だより創刊300号という節目を捉え、市議会広報をテーマに広島の大学生や市政記者との座談会を開催しましたので、その模様をご紹介します。

市議会だよりの改善点は？

—紙面をどのように変えると見やすくなると思いますか？

長崎 議会で決まったことによって自分の生活がどう変わるのかが写真付きで紹介されていたら分かりやすいですね。それから、イラストを交えて平易な言葉で説明されてみたり、Q&Aも要点を絞ったら良いかなと思います。



新山 一般質問の掲載数を減らして、その分、質問に関する写真やデータを掲載するのも良いと思います。今、新聞で力を入れていることは双方向性です。LINEで読者の疑問に答えたり、こちらから問いかけたりするなど、双方向性を大事にしています。市議会でも市民とコミュニケーションを取りながら、何を知りたいのか問いかけて答えていくという方法があるのではないかなと思います。

佐々木 市議会を紹介したマンガを学校の掲示板に貼って親近感を持たせつつ、議員が学校に出前講座に行くなど、印象に残るようなことをすれば、その子どもたちが社会人になったときに、議会を意識するようになるのではないかなと思います。また、私が報道に携わる中で常に思っていることは、発信するだけでは伝わっていないということ。意識して心に留めてもらわないと伝わっていないということです。参加型にすれば、自分のこととして意識するので、良いかもしれません。



新山 創さん
中国新聞社



長崎 奈美さん
広島ホームテレビ



佐々木 良介さん
NHK 広島放送局

参加してくださった記者の皆さん